

平成 30 年度 第 2 回家庭教育学級報告
日時:平成 30 年 9 月 20 日 13 時 30 分～
場所:吾妻中学校体育館
参加人数:在校生・教職員・保護者 22 人



第 2 回 家庭教育学級 LINE 講座

インターネットを使うときに、
気をつけること 考えること

「楽しいコミュニケーション」を考えよう

講師:坂井 陽介 先生

LINE オフィシャルインストラクター

日本全国の小・中・高校生とその保護者及び教職員向けに講演・ワークショップ活動を展開。
2017 年度登壇実績 192 件

LINE: “大切な人” とつながる コミュニケーションアプリ LINE

2011 年東日本震災の 3 ヶ月後(6/23)にできました。音声通話、トーク、タイムライン等の機能があります。既読機能は、安否確認の為に作られた機能。

和やかな雰囲気が始まった講座。生まれてから既にインターネットが当たり前のように存在している子供たちにインターネットでのコミュニケーションの基本を講義してくださいました。

『自分と相手の違い』を考えよう

リアルな現実なら、相手を 見て 話して 聞く事でコミュニケーションをとっていきます。生徒に LINE Tik Tok instagram YouTube ネットゲーム等の SNS を経験したことがあるかを問かけると 8 割が、インターネット検索を加えるとほぼ全員が使用したことがあるという事でした。

コミュニケーションには相手が必要、相手の言葉を受けて自分の言葉を送るということ
で実際に 2 人の 8 年生がキャッチボールをしました。一通りキャッチボールをした後、片方の生徒を 80 代の年齢の人という設定にしてもう一度キャッチボール。2 人に感想を聞くと
投げるときは相手が受けやすいように投げ、受けるときは予測して受けたとのこと。

80歳の人に投げるのと13歳の人に投げるのでは違う、相手の事を考えて行うことの大切さを体験しました。

次に人から言われて嫌だなと感じる言葉は何かについて問いかけられました。大人の私たちが「いい」と思うような真面目、大人しい、一所懸命などの言葉が、嫌だと答える子供たちが何人もいたのには少し驚きました。自分と相手との違い、“嫌な言葉“は人によって違うという事を常に考えておくことが大切だという事にも気付かされました。

ネット上のコミュニケーションは“相手の顔”が見えにくいので文字だけで伝えると感情が伝わらないので誤解が生じやすい事もあらためてわかりました。スタンプや顔文字が多用されるのも誤解を回避し、感情を伝え易いからなのだそうです。

ネット上では様々なトラブルが発生しています。だからといって全くインターネットと生活を切り離しては生きてゆけません。

今しかない時間の中でインターネットとの接し方を考えようと先生は締めくくられました。

講演を拝聴後、保護者で感想と、各家庭の状況を話し合いました。

《家庭内のルール》

- :時間を決めて使わせる。
- :パソコンはリビングで使用
- :検索はヤフーキッズのみ
- :親が見ることを伝えてある。
- :インターネットだけロックしている

《トラブルなど》

- :LINEの悪口をスクリーンショットして転送してくる。
- :ゲーム課金
- :ドライアイ
- :長時間使用で依存症 等々

